

平成28年度中期事業計画

特定非営利活動法人
十日町市地域おこし実行委員会

理念

- ① 池谷・入山地区の集落と農業の継続を実現しつつ、全国の過疎の集落が抱えている集落存続問題の成功例を示す。
- ② 持続可能な新しい村づくりを実践し、循環型の社会モデルを目指し100年持続させる展望を示す。
- ③ 地元住民だけでなく地域外の関係者も含めて、新しい村づくりを進める。
- ④ 相互扶助と心豊かな社会実現を目指す。

目的

1. この法人は、十日町市内の池谷・入山集落において都会からの後継者の定住を促進し、持続可能な集落モデルを自ら体現している地域を作り、全国に情報発信する事を通じて、全国各地の過疎地の集落で農業の後継者を増やし、持続可能な生活スタイルを実現させ、都市部に対しても安心・安全な食料や再生可能エネルギーの供給を行う事で日本全体を持続可能な社会にする事に貢献することを目的とする。
2. 持続可能な集落モデルとは以下のように考える。
 1. 物理的に生活が成り立つ状態
(aある程度の現金収入とb生活に必要なものの循環・自給)
 2. お互いに顔が見える関係で助け合い、安心して楽しく生活ができる状態

ビジョン

- ① 池谷・入山を存続させる
- ② 十日町を元気にする
- ③ 日本の過疎の成功モデルを示し日本や世界を元気にする

ビジョンから見た事業の区分

② 十日町を元気にする
⇒②地域おこし応援事業
⇒③地域復興支援員設置事業
(里山プロジェクト)

① 池谷・入山を存続させる
⇒①池谷・入山モデル作り事業

③ 日本の過疎の成功モデルを示し
日本や世界を元気にする
⇒②地域おこし応援事業

今後の事業の区分

① 農産物直販事業

- 農産物生産
- 農産加工品販売

② 体験交流事業

③ 移住促進事業

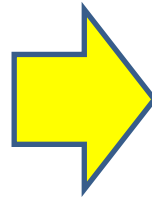
- 池谷・入山への移住受入
- 十日町市全体への移住促進

④ 情報発信・農山漁村応援事業

- 視察受入・講演など

⑤ 里山プロジェクト

- 十日町市内の復興支援員のマネジメント
- 十日町市内の地域おこし協力隊支援



① 池谷・入山モデル作り事業

- 農産物生産
- 農産加工品販売
- 体験交流イベント
- 池谷・入山への移住受入

② 地域おこし応援事業

- 十日町市全体への移住促進
- 池谷・入山以外の地域おこしの支援
- 地方の企業支援

③ 里山プロジェクト

- 十日町市内の復興支援員のマネジメント
- 十日町市内の地域おこし協力隊支援

3年後の具体的な目標

- 池谷・入山集落の取組がモデルとして軌道に乗っている
 - 農地を組織として継承と発展
 - 農業従事者4名以上の体制を作る
 - ライスセンター建設
 - 池谷・入山のフィールドを活用した交流事業の収益化（事務従事者の給与を確保）
 - 移住者が子育てしながら生活できる収入の確保
- 全国各地で以下の事を行う地域おこしの団体となっている
 - 地域おこし応援プログラム（行政・地域・地域おこし協力隊員向け）
 - 移住定住に関わる取り組み

3年後の姿を実現するために今年度行う重点事項

- 池谷・入山
 - 農業生産
 - 組織として稲作技術の安定
 - ライスセンター建設の準備(29年度に建設予定)
 - 山清水米販売
 - 現在のお客さんの人脈を広げる
 - 7/23「ありがとう」の会を開催
 - お客さんがどういうお米を求めているかを知る
 - 7月～8月で和日米会の定例会を池谷集落で実施
 - 交流事業を収益化する
 - 他社と連携して省力化、集客の拡大を図る
 - 福祉関係の取組みにフィールドを提供するのを試行する
 - 多様な人が来やすいような取り組みを行う
 - 高齢者が安心して暮らし続けられる体制構築
 - 整体
 - 集落内の除雪を請け負う
 - その他必要に応じて実施

3年後の姿を実現するために今年度行う重点事項

- 飛渡地区
 - 飛渡地区の将来ビジョン実現に向けて応援する
 - 農産物の販路が出来たら池谷・入山の商品も販売する
- 十日町市全域・全国各地
 - 里山プロジェクト
 - 十日町市内の地域おこし協力隊の支援
 - 学校給食や市内飲食店・福祉施設等地産地消の取組を継続
 - 市内各地の中山間地での支援活動
 - 移住定住に関わる取組み
 - さとナビでさと記者を増やし、記事の更新頻度と質を上げる
 - さと記者同士のコミュニティを強化するために顔を合わせる機会を多く持つ
 - 十日町・津南の移住促進イベントを受託して実施
 - インターンシップのコーディネート
 - 地域おこし応援プログラムの確立

地域おこし応援プログラムとは

- 何か？
 - 全国各地で地域おこしをしようとしている個人・団体の応援をするためのプログラム。
 - 具体的には地域おこしには5つの段階がある事を知ってもらい、それぞれの段階で必要なサポートを提供する内容。
- なぜやるか？
 - 日本の過疎の成功モデルを示し日本や世界を元気にするというビジョンを実現するための具体的な取り組みになると考えるから。

地域おこし応援プログラム

個別支援

- 状況に応じたアドバイス
- コンピテンシーを活用した人材育成
- やりがいを生み、業績を向上させる人事評価制度構築

第5段階
「持続可能な状態にする」

ビジネスモデルデザイナー認定講座

第4段階
「事業・組織の立ち上げ」

- 小資本で競合ゼロのビジネスモデルを設計

地域おこし ステップアッププログラム

第3段階
「活動の輪を広げる」

- ファシリテーション
- 将来ビジョンを作る際のポイント
- 地域のビジョン作りワークショップ
アジェンダと根回しの段取り設計

第2段階
「小さな成功体験をおこす」

- 小さな成功体験の共有
- 地域を継続的に発展させる重要ポイント

第1段階
「地域に溶け込む」

- 地域内の関係者整理
- 自分の志を考えてみる
- 地域内でのコミュニケーションの留意点
- 地域の人が望む事と自分の志の重なる部分で活動を組み立てる

地域おこし成功のための「5段階のステップ」があることを知る

- 実際の地域おこしの事例
- 5段階のステップ全体像

講演・視察

地域おこし
初級プログラム

目指す姿のイメージ

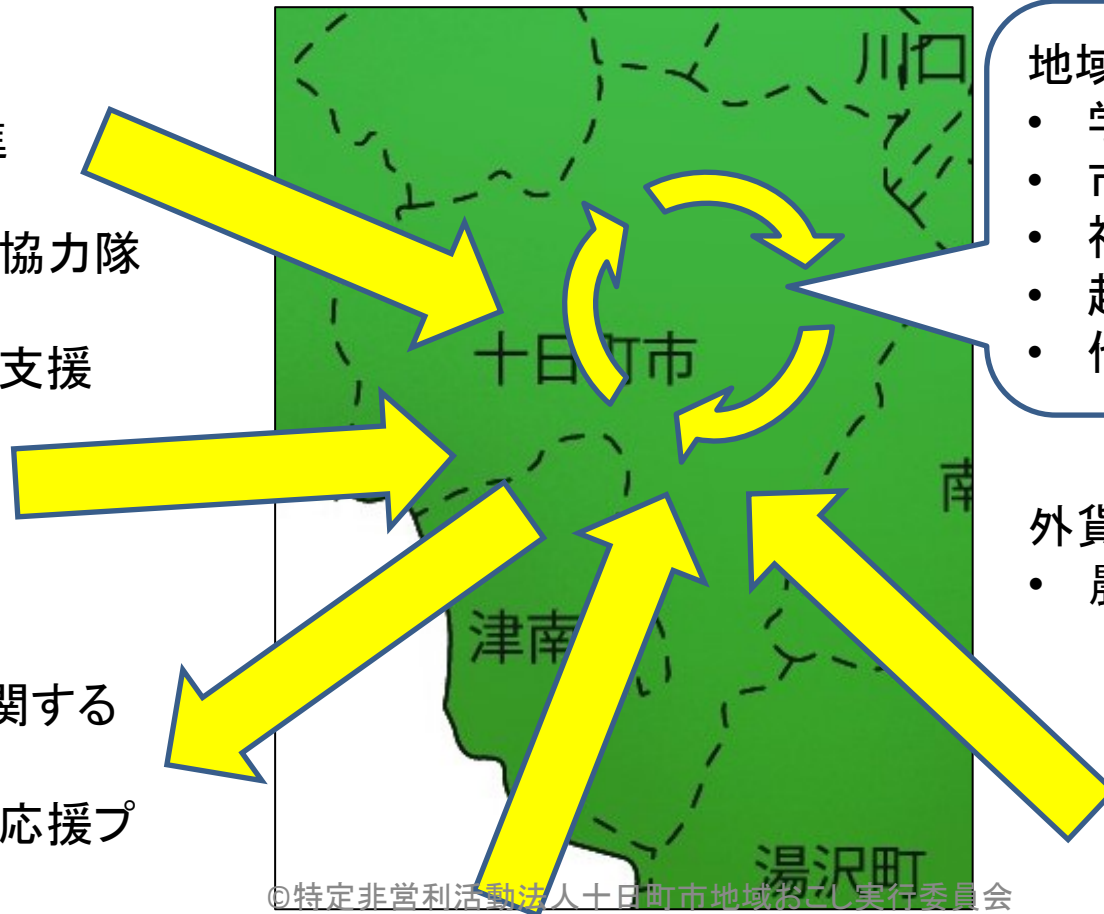
池谷・入山の取組をはじめとして市内各地でモデルを作る
中山間地の活性化モデルを広く発信する

移住者の促進

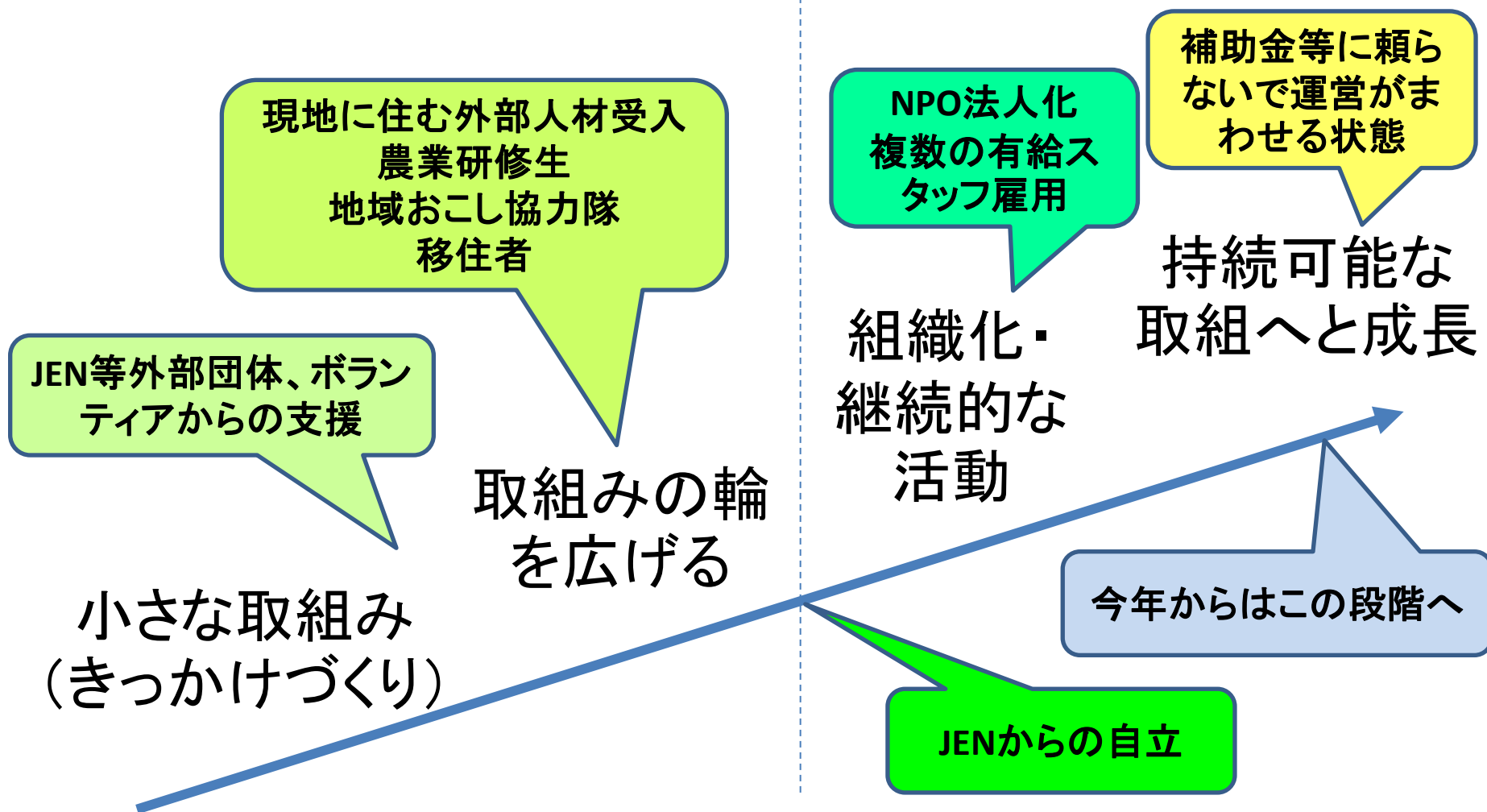
- ・ インターン
- ・ 地域おこし協力隊
- ・ 新規就農
- ・ 起業・継業支援

地域おこしに関する
情報を発信

- ・ 地域おこし応援プログラム



地域おこしの発展段階



外部の人達との関係

地域おこしを支援
してもらう
= ボランティア

地域おこしと一緒に
楽しみながら行う
= サポーター

